



## 伝え残しておきたい里山の風景



理事 豊泉 良

平成27年度から東京都民間保育園協会の理事に就任しました武蔵村山市、きし保育園の豊泉です。少し自己紹介をいたします。現在年齢48歳、保育園に勤務して約20年が過ぎ、その前は某信用金庫に勤務し営業担当をしていました（バブル経済絶頂期にスーパーカブに乗り、お得意様先への集金や御用聞き、日々のノルマ、月末には預金額や融資額の目標達成へのまい進、そして数字数字）。趣味はランニング。改めましてどうぞよろしくお願ひいたします。

この原稿が掲載されるのが4月1日号、各保育園では入園式が終わった園、準備に追われている園、元気に泣く新入園児の保育、多忙を極めていると思われまふ。

さて、区部にお住ひの皆様にはなじみの薄いわが武蔵村山市は、多摩地区の北部に位置し、北側に自然の豊かな狭山丘陵を背にして、他はひたすら平らな土地が広がり、東西には青梅街道と新青梅街道がはしっています。また、市の南西部は米軍「横田基地」の一部となっていて、軍用機から発せられるごう音がよく聞こえます。北側の狭山丘陵の一部は「野山北・六道山公園」<http://www.sayamaparks.com/noyama/>として整備され市民に愛されています。また、丘陵の南斜面を利用して都内では珍しく「みかん狩り」が楽しめます。休日の公園駐車場には県外ナンバーの自動車並び、フル装備のハイカーやマウンテンバイクの車列、迷彩柄の写真愛好家の姿が見られ、私も休日はトレイルランニングを楽しんでいます。

当保育園から野山北・六道山公園へは徒歩20分ほどで公園の一部にたどり着き、そこは田んぼや原っぱがあり、かやぶきの里山民家にはかまどや囲炉裏も設けられ炭で建物をいぶしています。日々のお散歩コースでもあり私も時間の都合をつけて引率し遊びに出かけています。そして引率する度に自分の子供のころを思い出し、友達と野山を駆け回った記憶がよみがえります。

春、田んぼに入りオタマジャクシやカエル、ザリガニを捕まえ、夏はクワガタやカブトムシ、セミの採集。秋、腐葉土からカブトムシの幼虫をさがし、冬は鉄製の展望台（平成14年老朽化の為、解体）に登り新聞紙などの雑紙を北風に乗せて飛ばし、はるか遠くまで飛んでいく様を観察？しました（公園内を汚してしまいすみません）。時には他校とのトラブルもありましたね。今思えばこのような遊びの中での体験や経験、トラブルの解決方法はほとんど二つ三つ年上の先輩達からなんとなく伝え教えられ、私も年下の子供たちと遊びながら自然と伝承していった気がします。

山の中で高く危険な木登りをするには、年長者が実際に登って手本を示し、次に手のつかまりヶ所、足の掛けヶ所を教え、届かないところは少し強引に手や足を引っ張られ伸ばされて、初めて挑戦する者は自分の度量を信じ、恐怖心と闘いながら挑み、そしてようやく達成できた時の気持ちは筆舌に尽くしがたいものでした。現代は情報量膨大の中で調べものや質問、トラブルの解決方法等すぐに検索が出来て、便利になり合理的になりましたが、何だか建て前ばかりが幅を利かせ、現実に手取り足取り教えられたり伝えたりする事が少なくなって、何か少しさみしい気がするのでは私だけでしょうか？

タブレット上でオンラインゲームを楽しむことは時代の流れでもあり否定するものではありませんが、それに没頭し過ぎて現実と空想の境界が見えなくなってしまう事は避けなければならないと思います。

幼少期を保育園で過ごす子ども達の数年間だけは、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を心がけ、手間・暇をかけ、回り道をしながらゆっくりと、手取り足取り何度も何度も教え、そして疲れ飽きてきたら深呼吸をしてひと呼吸おいて、時にはトラブルも見守り…。そんな子ども達の成長を手伝えたらいいな、と思います。

そんな気持ちで今後も里山周辺で目一杯子ども達と遊びを楽しみたいと思います。



写真は地上15M、解体された展望台